

# 令和4年度 第2回沖縄県環境影響評価審査会

南部広域行政組合ごみ処理施設整備事業に係る  
環境影響評価方法書の概要について

南部広域行政組合

1

## 本日の説明内容

- 1.事業計画の概要
- 2.環境影響評価項目の選定
- 3.調査、予測及び評価の手法

# 1.事業計画の概要

## 事業の背景

現在

3施設体制

島尻環境美化センター  
ごみ焼却施設のみ閉鎖

糸豊環境美化センター  
稼働後24年

東部環境美化センター  
稼働後37年

現状と課題

- 施設の老朽化
- ごみ処理の効率化
- 財政負担の軽減

今後

1施設に集約

新ごみ処理施設

焼却施設+  
マテリアルリサイクル推進施設



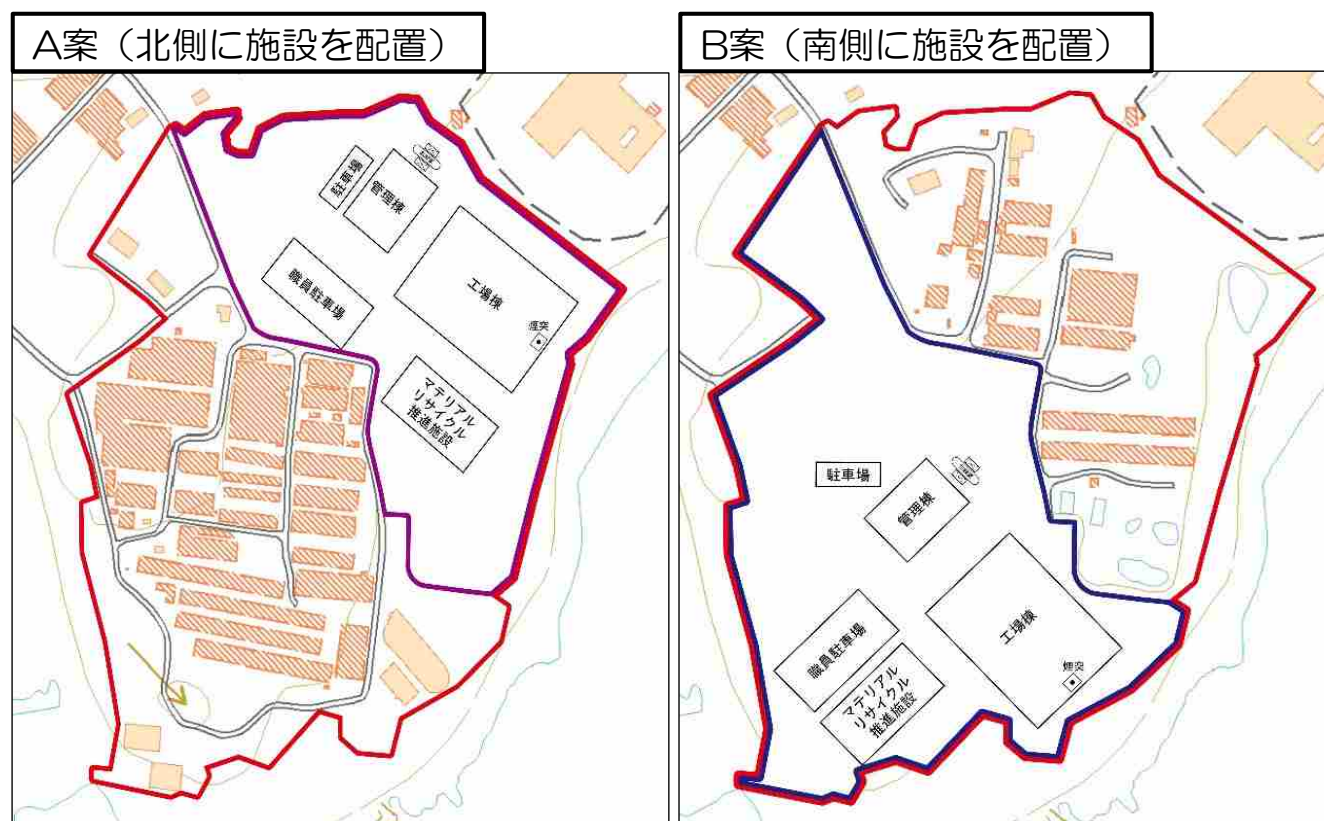
対象事業実施区域

# 事業の概要

項目	概要
事業者	南部広域行政組合
対象事業実施区域	島尻郡八重瀬町字具志頭1837
処理能力 (1日あたり)	焼却施設：288トン マテリアルリサイクル推進施設：14トン
1日の稼働時間	焼却施設：24時間連続 マテリアルリサイクル推進施設：5時間連続
煙突高さ	59m
水道計画	上水道を利用
排水計画	雨水排水：海域へ放流 施設排水：全量循環再利用
車両走行ルート	今後検討

5

## 施設配置案の絞り込み(1)



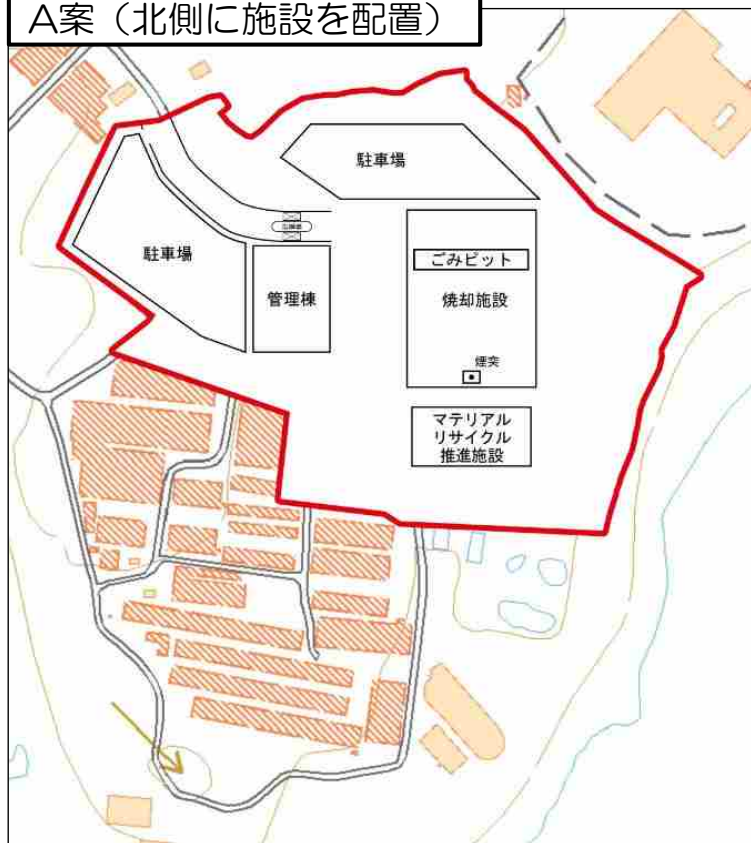
3

6



# 施設配置案の絞り込み(2)

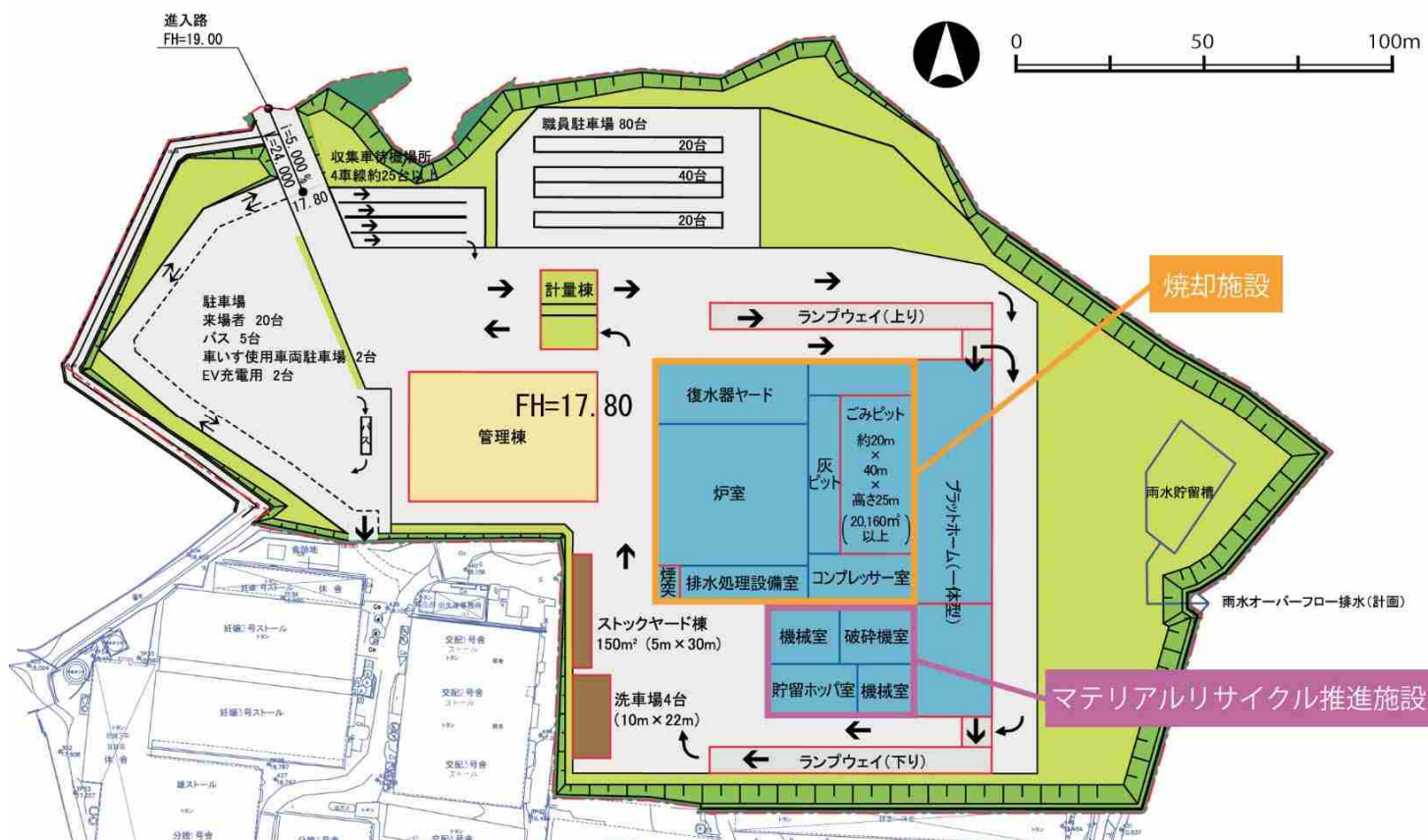
A案（北側に施設を配置）



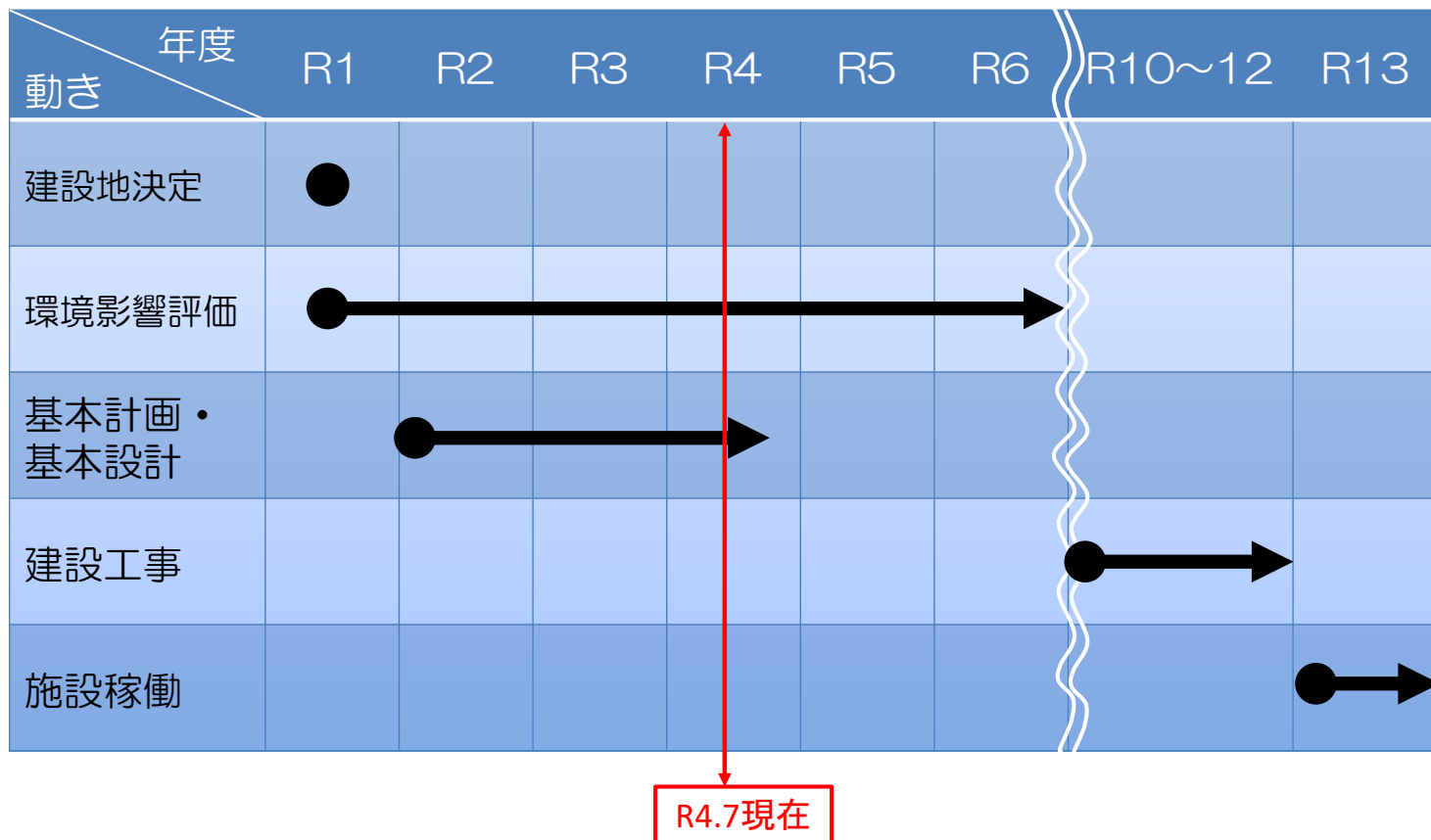
A案が望ましいと考えた理由

- 最終処分場が建設されるまで畜産業が一時的に残存する場合にも、集落への悪臭の影響を低減できること。
- 眺望地点である「具志頭城址」や「具志頭浜」から離隔をとり、景観面に配慮できること。
- 出入口により近い北側に施設を配置することで、見学者等の安全を確保することができること。

# 施設配置計画



# 事業スケジュール(予定)



## 2.環境影響評価項目の選定

# 選定した環境影響評価項目(1)

影響要因の区分		工事の実施			施設等の存在及び供用			
		造成等の施工による 一時的な影響	建設機械の稼働	資機材の運搬車両 の走行	廃棄物処理施設の存在	焼却施設の稼働	マテリアルリサイクル 推進施設の稼働	廃棄物運搬車両の走行
環境要素の区分								
大気環境	大気質	窒素酸化物	●	●		●		●
		二酸化硫黄				●		
		浮遊粒子状物質		●	●		●	●
		有害物質					●	
		粉じん等	●	●				●
	騒音	騒音		●	●	●	●	●
	振動	振動		●	●	●	●	●
	低周波音	低周波音				●	●	
悪臭	悪臭					●	●	

凡例) ●は環境影響評価項目として選定した項目を示す。

11

# 選定した環境影響評価項目(2)

影響要因の区分		工事の実施			施設等の存在及び供用			
		造成等の施工による 一時的な影響	建設機械の稼働	資機材の運搬車両 の走行	廃棄物処理施設の存在	焼却施設の稼働	マテリアルリサイクル 推進施設の稼働	廃棄物運搬車両の走行
環境要素の区分								
水環境	赤土等による水の濁り	●				●	●	
	水の汚れ	▲				●	●	
	地下水の水質	▲						
	底質	▲				●	●	
土壌に係る環境	土壌汚染	●				●		
	地形・地質				●			
その他の環境	日照障害				●			

凡例) ●は環境影響評価項目として選定した項目を示す。

▲は現況調査の結果を踏まえて予測評価の実施を検討する項目を示す。

12

# 選定した環境影響評価項目(3)

環境要素の区分	影響要因の区分			工事の実施				施設等の存在及び供用			
	一時的な影響	造成等の施工による	建設機械の稼働	資機材の運搬車両の走行	存在	廃棄物処理施設の稼働	焼却施設の稼働	マテリアルリサイクル推進施設の稼働	廃棄物運搬車両の走行		
陸域生物	●			●	●				●		
海域生物	●					●	●				
生態系	●			●	●	●	●	●	●		
景観					●						
人と自然との触れ合い活動の場	●			●	●				●		
歴史的・文化的環境	●				●						
廃棄物等	●					●	●				
温室効果ガス等			●	●		●	●	●	●		

凡例) ●は環境影響評価項目として選定した項目を示す。

## 3.調査、予測及び評価の手法

# 大気質、悪臭

調査項目		調査期間	
大気質	一般環境大気質	二酸化硫黄・窒素酸化物・浮遊粒子状物質	
		微小粒子状物質	
		塩化水素、ダイオキシン類、水銀	
	沿道環境大気質	窒素酸化物・浮遊粒子状物質	
	粉じん等（降下ばいじん）		4回/年（各1ヶ月連続） （春・夏・秋・冬季に各1回）
	地上気象	風向・風速・気温・湿度・日射量・放射収支量	通年観測
上層気象	風向、風速、気温	4回/年（各1週間連続） （春・夏・秋・冬季に各1回）	
悪臭	対象事業実施区域周辺	特定悪臭物質、臭気指数	
	廃棄物運搬車両走行ルート沿いの集落	臭気指数	
	廃棄物運搬車両	臭気指数	

15

# 大気質、悪臭

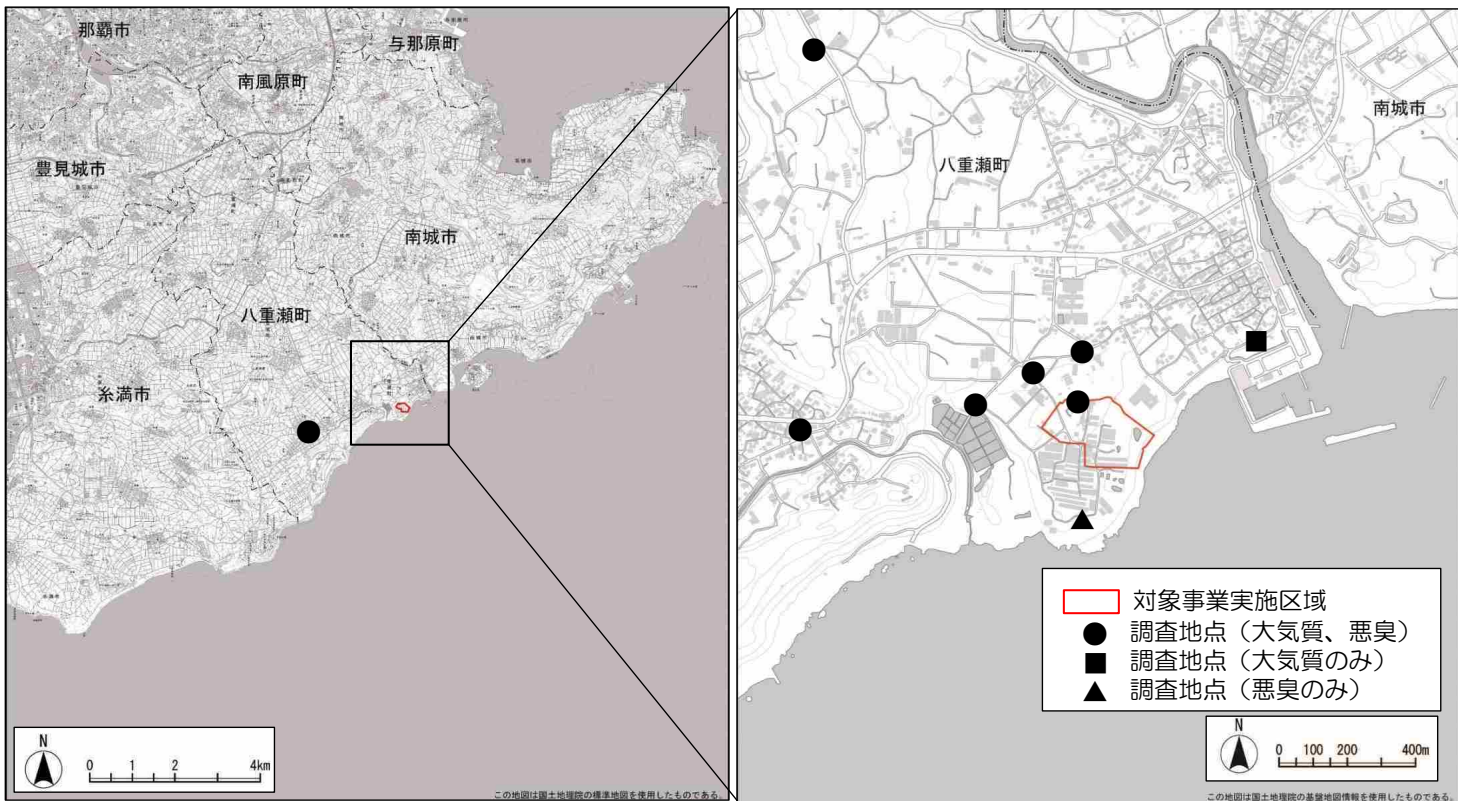




# 大気質、悪臭

## 調査地点

対象事業実施区域及び周辺の計8地点（敷地境界、最寄り民家、廃棄物運搬車両の走行ルート沿道など）、現在稼働中のごみ処理施設、現在廃棄物運搬車両が走行しているルートの沿道



# 騒音、振動、低周波音

調査項目		調査期間	
騒音	環境騒音	騒音レベル	2回/年（各24時間）（休日・平日に各1回）
	道路交通騒音	騒音レベル	2回/年（各16時間）（休日・平日に各1回）
振動	環境振動	振動レベル	2回/年（各24時間）（休日・平日に各1回）
	道路交通振動	振動レベル	2回/年（各16時間）（休日・平日に各1回）
	地盤卓越振動数	1/3オクターブバンド振動加速度レベル	1回/年
	交通量、走行速度	方向別車種別交通量、走行速度	2回/年（各24時間）（休日・平日に各1回）
低周波音	低周波音レベル	2回/年（各24時間）（休日・平日に各1回）	



# 騒音、振動、低周波音

調査地点

対象事業実施区域及び周辺の計9地点  
(敷地境界、最寄り民家、廃棄物運搬車両の走行ルート沿道など)



19

# 赤土等による水の濁り、土壌汚染

調査項目		調査頻度・調査時期
赤土等による水の濁り	海域の濁りの状況	濁度、浮遊物質、塩分、透明度 平常時：4回/年 (春・夏・秋・冬季に各1回) 降雨時：2回/年 (降雨の多い梅雨期)
	海域の底質中の懸濁物質含量の状況	懸濁物質含量、粒度組成、強熱減量、比重、含水率 平常時：4回/年 (春・夏・秋・冬季に各1回)
	赤土等の濁水の主要発生源 (裸地等) の状況	裸地等の分布及び流出経路となる水路、降雨時の濁水の発生状況 平常時：4回/年 (春・夏・秋・冬季に各1回) 降雨時：2回/年 (降雨の多い梅雨期)
	土壌及び集水域の状況	土壌 (種類、分布、粒度組成、沈降速度、流出係数) 集水域の分布 1回/年 (平常時)
	潮流の状況	海域の潮流 2回/年 (夏・冬季に各1回)
土壌汚染	土壌汚染の状況	環境基準項目 (29項目) 1回/年

潮流調査



土壌調査



20



# 赤土等による水の濁り、土壌汚染

調査地点

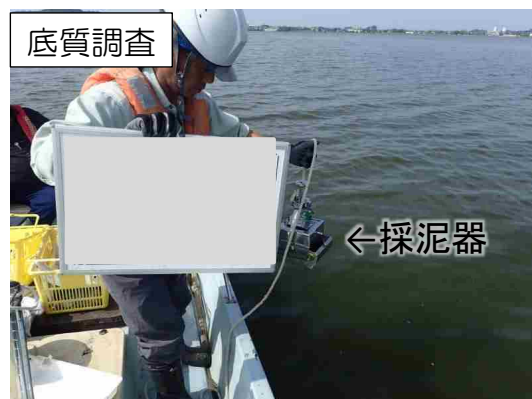
赤土等による水の濁り：海域5地点、水域3地点、対象事業実施区域周辺1km  
 土壌汚染：対象事業実施区域周辺2地点



21

## 水の汚れ、底質

		調査項目	調査頻度・調査時期
水の汚れ	水質の状況	人の健康の保護に関する環境基準項目	平常時：4回/年 (春・夏・秋・冬季に各1回)
		生活環境の保全に関する環境基準項目等	
	潮流の状況	海域の潮流	2回/年(夏・冬季に各1回)
	気象の状況	気象観測記録の収集整理	
底質	海域の底質の状況	有害項目	4回/年(春・夏・秋・冬季に各1回)
		その他の項目	
	海域の底質中の懸濁物質含量の状況	懸濁物質含量、粒度組成、強熱減量、比重、含水率	



# 水の汚れ、底質

調査地点

海域5地点、水域3地点



23

## 地下水の水質、地形・地質、日照障害

調査項目		調査頻度・調査時期
地下水の水質※	地下水の水質の状況 環境基準項目、その他の項目	1回/年（干潮時）
地形・地質	地形・地質等の状況	1回/年
日照障害	土地利用の状況、地形の状況、日影の状況	1回/年

※先行して土壌調査を実施し、土壌中に有害物質が含まれていた場合に調査を実施します。



地下水の水質調査

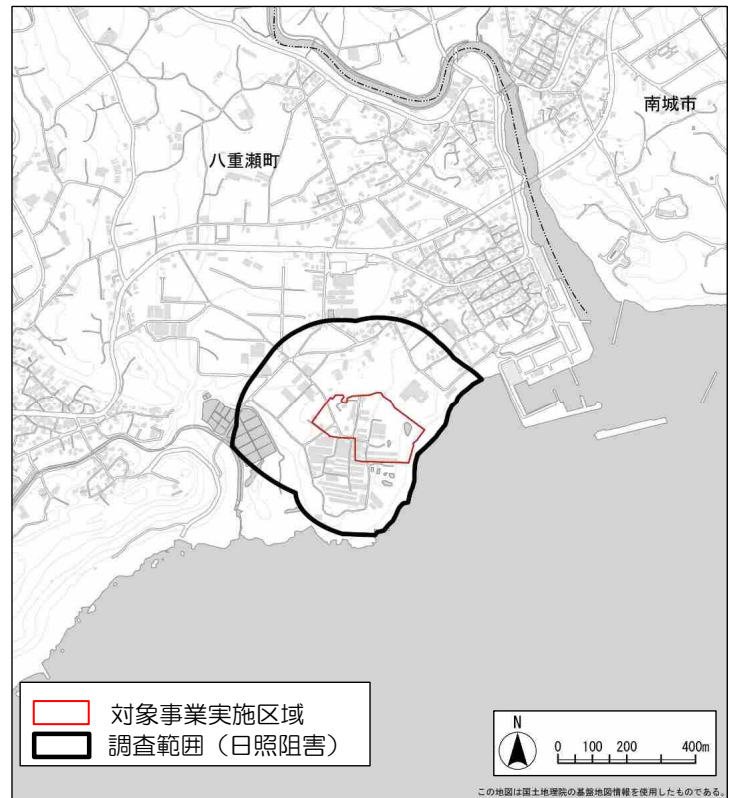
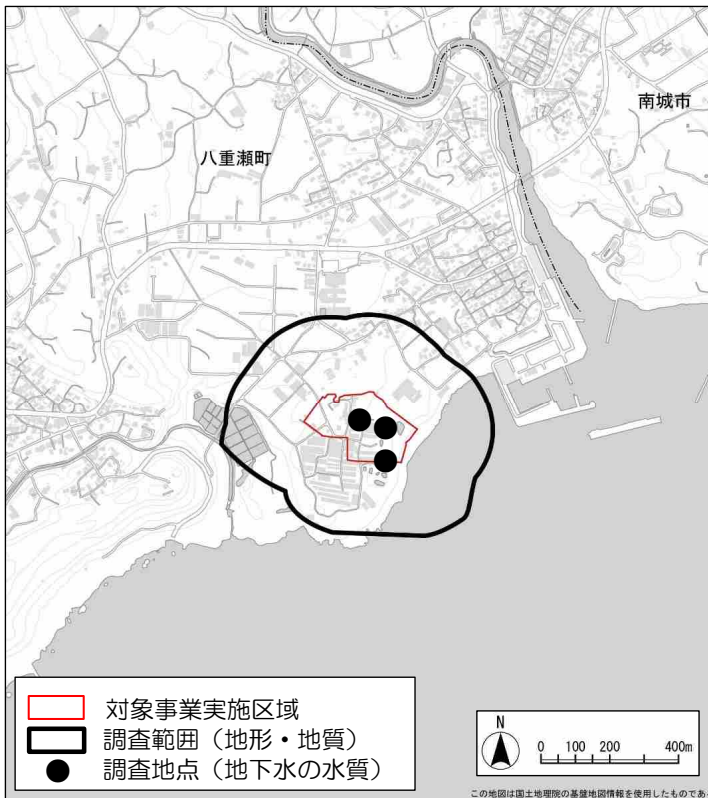
24



# 地下水の水質、地形・地質、日照障害

調査地点

地下水の水質：対象事業実施区域内3地点  
 地形・地質、日照障害：対象事業実施区域周辺250m（地形・地質のみ岩礁部を含む）



25

## 陸域生物、生態系

調査項目		調査頻度・調査時期	
陸域生物	植物	植物相	4回/年（春・夏・秋・冬季に各1回）
		植生	1回/年（秋季）
		重要な植物種及び重要な植物群落の状況	「植物相」と同様
		植生自然度及び潜在自然植生	植生調査結果と既往文献・類似事例を参考
	動物	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、魚類、底生動物	4回/年（春・夏・秋・冬季に各1回）
		陸生甲殻類	1回/年（夏季）
陸産貝類		2回/年（春・秋季に各1回）	
生態系	生態系の概況	動植物調査に準じる	
	注目種及び群集の状況	動植物調査に準じる	

植物調査

動物調査



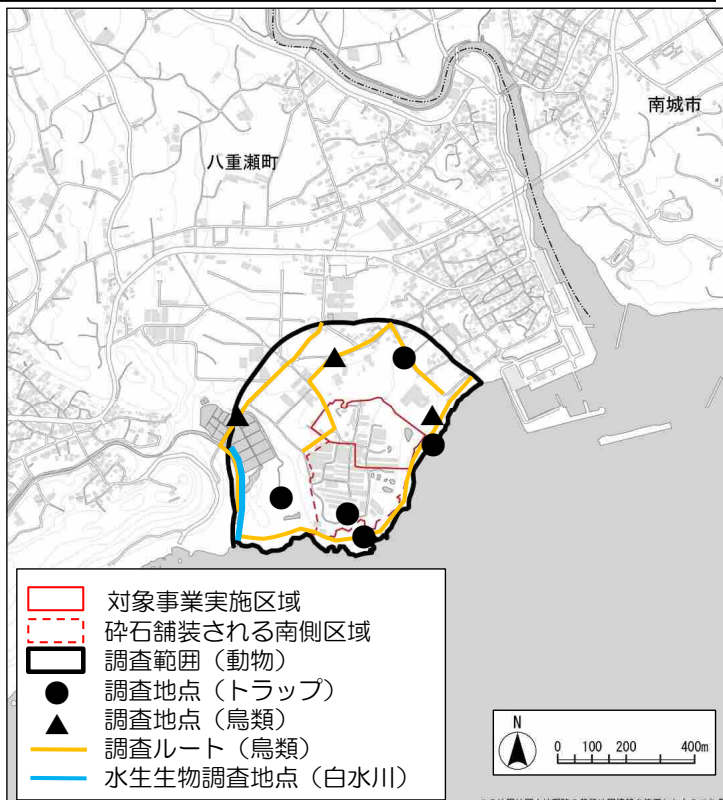
13

26

# 陸域生物、生態系

調査地点

対象事業実施区域及び周辺250m  
哺乳類、昆虫類はトラップを5地点、鳥類は調査ルートと定点を3箇所設定



- 対象事業実施区域
- 碎石舗装される南側区域
- 調査範囲（動物）
- 調査地点（トラップ）
- 調査地点（鳥類）
- 調査ルート（鳥類）
- 水生生物調査地点（白水川）

# 海域生物、生態系

調査項目		調査頻度・調査時期
海域生物	植物	海藻草類 植物プランクトン
	動物	魚類 底生動物 サンゴ類 魚卵・稚仔魚 動物プランクトン
生態系	生態系の概況	動植物調査に準じる
	注目種及び群集の状況	動植物調査に準じる

海域生物調査

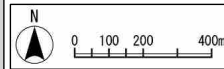




# 海域生物、生態系

調査地点

海域6地点  
サンゴ類分布調査は前面海域1500m×300mの範囲



- 対象事業実施区域
- 砕石舗装される南側区域
- 調査地点
- 調査範囲（サンゴ類分布調査）

この地図は国土地理院の基礎地図情報を使用したものである。

29

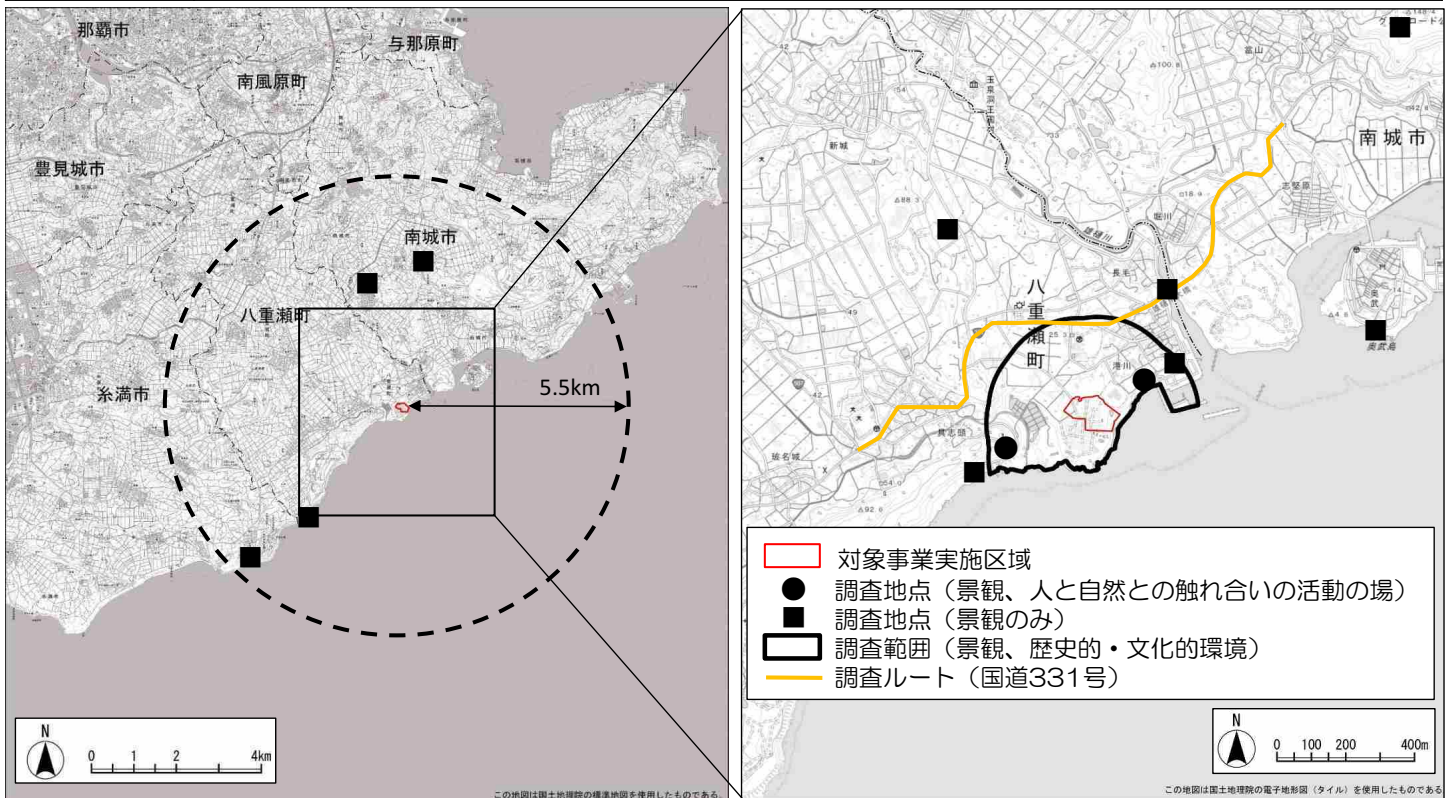
## 景観、人と自然との触れ合い活動の場、歴史的・文化的環境

調査項目		調査頻度・調査時期
景観	眺望景観及びシークエンス景観の状況	1回/年
	囲繞景観の状況	
人と自然との触れ合い活動の場	利用状況、利用形態及び利用環境、アクセス形態、価値	2回/年(夏・冬季に各1回)
歴史的・文化的環境	文化財、埋蔵文化財包蔵地等の状況、御嶽や拝所等、その他の文化財に準ずるものの状況	1回/年



# 景観、人と自然との触れ合い活動の場、歴史的・文化的環境

調査地点	景観：対象事業実施区域周辺の眺望点12地点、対象事業実施区域周辺500m、国道331号沿道 人と自然との触れ合いの活動の場：対象事業実施区域周辺2地点、国道331号沿道 歴史的・文化的環境：対象事業実施区域周辺500m
------	---



31


## 廃棄物等、温室効果ガス等

調査項目		調査頻度・調査時期
廃棄物等	廃棄物の処理・処分の状況	1回/年
温室効果ガス等	温室効果ガスの排出量又はエネルギー使用量及びそれらの削減の程度	1回/年

調査方法	既存資料収集整理
------	----------

調査地点	廃棄物等	調査地域（沖縄県全域）の廃棄物処理・処分施設、資源化施設
	温室効果ガス等	対象事業実施区域





以上で、環境影響評価方法書の概要  
についての説明を終わります。